

バッハ《無伴奏チェロ組曲》との旅

その真髓を探る対話



チェロの聖典、バッハ《無伴奏チェロ組曲》。世界的チェロ奏者ジャン＝ギアン・ケラスは最重要レパートリーとして長年にわたって演奏を重ね、2回の全曲録音を残している。東京、バルセロナ、南仏フォルカルクエ、モントリオール、ベルリン、ブエノスアイレス、パリ、アテネ——世界中を旅しながら、あるときは全6曲を番号順に、あるときは現代曲と組み合わせ、またあるときはダンス・カンパニーとともに再創造を試みる。この本では、組曲を構成する各舞曲の分析、フレージングのポイント、装飾音の付け方、ヴィブラートの有無、テンポの取り方、リピートは必要か、弦の選択など、ケラスが体得した《無伴奏》の真髓を音楽学者エマニュエル・レイベルとの対話を通して明らかにされる。チェロ演奏者、リスナーともに有用な情報が満載。さらにケラスと《無伴奏》とのパーソナル・ヒストリーもたっぷり盛り込まれる。ケラス・ファン必携の撮り下ろしカラー口絵付き。

■目次

巻頭口絵

序文[センツァ・バッソ(通奏低音なし)]

I 日曜日のバッハ /東京 [全体][変則調弦][ピッコロ]

II 限りなく小さく、限りなく大きい

/バルセロナ [プレリュード][アルマンド][クーラント]

III 形成期 /フォルカルクエ…

IV スチール弦かガット弦か /モントリオール…

V アンテルコンタンポランでの学び /ベルリン…

VI 全曲演奏への挑戦 /ブエノスアイレス…

VII 組曲を録音する /パリ[テンポ][繰り返し][重力]

VIII 組曲を拡散する /アテネ

謝辞 記者あとがき

判型: A5判 ページ: 160頁
定価 3,300 円 (本体 3000 円+税10%)
ISBN978-4-276- 14069-1

■著者プロフィール■

ジャン＝ギアン・ケラス(Jean-Guihen Queyras)

1967年モントリオール生まれ。リヨン国立高等音楽院、フライブルク音楽大学、ジュリアード音楽院でチェロを学ぶ。1990年より2001年までアンサンブル・アンテルコンタンポランのソロ・チェロ奏者を務め、2002年にはグレン・グールド賞を受賞したブレーズの選考により、傑出して有望な若手芸術家に対して贈られるグレン・グールド・プロテジェ賞を受賞。レパートリーはバロックから現代まで多岐にわたり、ウィーン楽友協会、コンセルトヘボウ、ウィグモア・ホール、カーネギー・ホール等、世界の主要ホールでリサイタルを行なう。また、パリ管、バイエルン放送響、ロンドン響、フィラデルフィア管をはじめとするオーケストラと共演。2007年と2023年の二度にわたって録音したバッハ《無伴奏チェロ組曲》全曲ほか数々のCDをリリース。使用楽器は1706年頃製作のストラディヴァリウス“Kaiser”(カナダCanimex Inc.より貸与)。フライブルク音楽大学教授。

エマニュエル・レイベル(Emmanuel Reibel)

パリ高等師範学校、パリ国立高等音楽院卒業。『音楽はいかにして“ロマン派”になったのか——ルソーからベルリオーズへ』(Fayard)で2014年アカデミー・フランセーズのフランソワ＝ヴィクトル・ヌリ賞受賞。おもな著書に『ベルリオーズ時代の音楽批評の文体』(Champion)、『ファウスト 神話に挑む音楽』(Fayard)、『ナチュール 自然と音楽』(Fayard)など。現在パリ国立高等音楽院で美学を教えるほか、リヨン高等師範学校で音楽学の教授を務める。



→ BOOKCELLAR のご注文も可能です。PC・スマホからいつでもご注文いただけますご利用ください。

(貴店名・帳合)	(注文)	新刊！
	冊	バッハ《無伴奏チェロ組曲》との旅 その真髓を探る対話 A5判・160頁 ISBN978-4-276-14069-1 定価 3,300 円 (本体 3000 円+税10%)

➡ ご注文: FAX 03-3235-2148

(株)音楽之友社／営業部 TEL.03-3235-2151